

令和 4 年度

事業所名： グループホーム いいとよ（北乃家）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370600512		
法人名	社会福祉法人 平和会		
事業所名	グループホーム いいとよ（北乃家）		
所在地	〒024-0004 岩手県北上市村崎野12-74-28		
自己評価作成日	令和4年9月2日	評価結果市町村受理日	令和4年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の並びにあるが、田園に囲まれた自然の多い環境であり、近くに県立病院、同法人の包括支援センターがある。敷地内には特別養護老人ホーム、デイサービス、介護保険相談やヘルパーステーションがある。介護理念に沿ったケアを目指し、毎月チーム目標を設定し取り組みを行っている他、個人目標も設定しスキルアップを図っている。コロナ禍で思うような活動が出来ない中でも、日々楽しく生き生きとした生活が送れるよう職員一同努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は県立中部病院に近く、広々とした田畑に囲まれている。同法人の特別養護老人ホーム、デイサービス、保育園が隣接し、これら施設と交流したり、防災面での協力が得られやすい環境にある。職員は毎年、理念に沿った介護目標を掲げ、今年は「毎日笑い合える環境を提供する」とし、日々実践している。コロナ禍により家族などの面会制限がある中で、利用者の笑顔満載の写真と居室担当の手紙を添えて毎月家族に送付し、大変喜ばれている。日常生活では、利用者毎に興味や嗜好などを記載した「好きなことシート」を作成して思いを把握し、職員間で共有してきめ細やかなケアに結び付けている。季節に合ったさまざまな行事を催し、単調になりがちな利用者の生活にメリハリを与えている。介護理念に掲げる、穏やかな気持ちで利用者は過ごすことができている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム いいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の他に、施設独自の介護理念を構築している。理念は目につく箇所に掲示し、常に理念を意識したケアを行うよう3年を目安に見直しをかけている。理念に沿ったチーム目標を毎月設定し取り組んでいる。	法人理念を礎に、事業所の介護理念を3年毎に作成している。その場合、全職員が「年を重ねたらどのように暮らしたいか」を自問しながら話しあって決めている。介護理念に基づく今年の目標を「毎日笑い合える環境を提供する」とし、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入。コロナ禍にて積極的な交流が行えていないのが現状であるが、定期的な清掃活動などには参加している。	長引くコロナ禍により、地域との交流や行事は低調である。そのような中でも、町内会の清掃活動に参加し、また、隣接の保育園児は通園時にあいさつや手を振ってくれ、利用者は何よりの元気をもらっている。	コロナ禍の収束を見据え、地域との交流の在り方について、関係者の意見も伺いながら、今の時期からプランを検討されることをお勧めします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前であれば、地域活動への参加は利用者様も一緒に行き、コミュニケーションを図っている。職場体験やボランティアの受け入れの際に認知症についての理解を深めてもらえるよう事前の説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している。事業所の現状や取り組み、行事報告を行っている。コロナ禍にて書面での開催が多かったが、状況がわかるよう施設での活動の様子の写真欄にコメントを記載したり、意見や質問を記入する用紙を同封している。	会議は感染予防対策として書面開催を余儀なくされている。委員は地域包括支援センター、飯豊地区振興会長、民生委員、家族会代表からなっている。コロナにおける生活状況、避難訓練実施報告などが議題となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の変更。更新の手続き等、必要に応じて連絡を取っている。	地域包括支援センターとはその都度、連絡や情報交換を行っている。市長寿社会課とは管理者会議や主任会議などで出た不明な点や疑問などに助言・指導を得ているほか、要介護認定申請に際しても支援していただくなど、しっかりとした協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の内部研修で再確認をしている他、毎月の会議でも離床センサーの使用に對しての話し合いや不適切なケアに対する話し合いを行っている。玄関は防犯上夜間は施錠している。	全職員が「事故対策・身体拘束委員会」に出席して身体拘束をしないケアについて話し合いをしているほか、内部研修を年2回開催している。現在、4人が離床センサーを使用している。防犯上夜間は施錠している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いいとよ (北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の内部研修で虐待についても学べる内容にしている。身体拘束同様、毎月の会議で不適切なケアがないか確認・話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等で制度についての理解や情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って丁寧な説明を心掛け、各所で質問や疑問点がないか確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設立しており、4月に総会、夏・冬と家族交流会を行い意見や要望などを聞く機会を設けている。(現在はコロナ禍にて行えていない)毎月居室担当が日々の様子などを写真と共にお手紙で送付している他、こまめな電話連絡で状況を伝えている。	毎年4月に家族会の総会、また夏・冬には家族交流会を開催し、家族からの意見や要望を聞く機会を設けていたが、コロナ禍の中、現在は開催に至っていない。家族と利用者の面会はベランダで窓越しに行っているため、毎月居室担当が日々の様子をこまめに書いて写真とともに家族に送付している。事業所発行の行事便りは、利用者の笑顔満載の写真で家族に喜ばれている。年度当初に居室担当が替わったときに家族に意見を求めている。利用者の希望は散歩が主である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や業務改善委員会、定期的な面談で意見や提案を聴いている他、細かい事でも気軽に相談できる環境作りに努めている。	毎月の業務改善委員会では、介護に関する意見や提案などが出され、運営に反映させている。年に複数回行われる管理者による個人面談は、職員提出の介護目標の進捗、達成状況を主に行われ、業務の改善や提案ばかりでなく職員の資質向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算Ⅰ、特別介護職員処遇改善加算Ⅰの算定。計画的な年次取得。永年勤続表彰・特別休暇など。		

事業所名 : グループホーム いいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はコロナ禍にて参加が難しいところもあるが、内部研修として毎月持ち回りで勉強会を行っている他、管理者との面談は定期的に行い、個人目標を設定し取り組む事でただ業務をこなすだけでなく常に考えて行動することでより良いケアや自身のスキルアップに繋がっていけるようサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会の会議への参加や法人系列の施設間で情報交換をしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時、契約時等に要望などを確認している。生活歴や入居に至るまでの経緯を把握して安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、契約時に入居に関しての不安点や要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様から状態や要望を確認し、担当ケアマネとも話し合い、必要に応じて他のサービスを説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人出来る事や得意な事を見極めて、食器拭きや洗濯物たたみ等を行っている他、職員と一緒に干し柿作りや山菜の下処理などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年3回の広報誌発行、施設での様子を書いたお手紙を毎月送付している。年3回家族交流会を設け家族様から要望や意見を聞いているが、コロナ禍にて開催出来ていない。		

事業所名 : グループホーム いいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて窓越しやオンライン面会が基本となっている。気軽に外出が出来ない状況であるが施設内での活動を充実させるよう工夫している。通院付き添いについては感染対策を十分にとりながら行っている。	コロナ禍により面会や来訪者は少なくなり、利用者は寂しい思いを抱いているとしている。馴染みの関係の支援の一助として、家族や知人にコメント入りのサマーカード(暑中見舞い)や年賀状を職員と一緒に作り郵送している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数や大勢でのレクやコミュニケーション、食席の配置等、利用者様同士の相性を考慮して職員が会話の橋渡しをしながらスムーズに会話ができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には支援できるよう、退去後も気軽に来苑して相談出来る事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や言動から思いを引き出し汲み取っている。ケース記録や申し送り、好きな事シートや毎月の目標に関わってくる際はノートで職員間での情報共有をしている。	利用者の好きな事、趣味などを利用者毎に表にして、「好きな事シート」として活用している。以前猫を飼っていた、海の近くで育った、パッチワークが好きなど、利用者の人となりに繋がる事項を職員で共有し、自然に利用者とは話題になっている。日々の気づきは「好きな事シート」に追記している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にて家族様や担当ケアマネから情報収集している。また、了承を得て他サービス利用時の様子等情報提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方やADL状態等の情報共有。少しでも変化があれば記録に残し申し送りで周知し日々の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、介護主任、居室担当で話し合い、3ヶ月毎に見直しを行っている。利用者様によっては本人も話し合いに参加している。状態変化があれば期間内でも都度見直しを行っている。	介護計画は3ヵ月ごとに見直しを行い、見直しには本人も参加することがある。計画作成担当者、介護主任(管理者)、居室担当の3者で話し合って決定し、職員会議で報告している。看取り介護に変更する場合は、介護計画の見直しを行っている。見直しの際はほとんどの家族が来所し、要望等を伺い、同意を得ている。	

事業所名 : グループホーム いいとよ (北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何気ない会話や日々の過ごし方など詳しくケース記録に残し、情報共有して介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況やニーズに合わせて可能な限り通院介助や訪問美容等の対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて現在は行えていないが、ゴミ拾いや花植え等の地域行事への参加。保育園との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続するようにし、受診時に様子を伝えると共にバイタルや状態の記録を渡している。必要に応じて受診同行して状況を伝えている。重度化にて受診が困難になった場合は、訪問診療への切り替えを勧めている。	入居前からのかかりつけ医を7名が継続受診し、受診は家族同行を基本としている。週1回の訪問看護師が来訪し、利用者の健康状況に併せメンタルチェックも行っている。訪問歯科を利用している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護来苑時に状態や気になる事を報告している。急変時には電話にて報告し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に病院へ情報を提供している。退院前のカンファレンスに参加し、受け入れ態勢を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明をし意向を確認している。状態が変わる都度家族様へ連絡し、医師より説明を受けて話し合いを重ねている。職員間でも情報共有し看取りケアの話し合いを行っている。	入居時に看取りについて説明し本人、家族の意向を確認している。介護度が高くなると家族へ説明と話し合いを重ね、利用者、家族の意向を尊重して対処している。最近も看取りがあった。職員の大半が看取りを経験しており、振り返りに担当医師が参加する場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは定期的に見直しをかけている。いつでも確認できるようファイリングしている。電話連絡や救急搬送時のマニュアルは見ながら行えるよう電話の側に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	通報訓練も含め、年2回(夏・冬)避難訓練を行っている。夏は消防立ち合いの元、地域の方も参加しての訓練としている。冬は薄暮時に開始し、暗い中での訓練を行っている。水害時の避難経路の確認と施設内での対策マニュアルを作成している。	年2回(夏・冬)避難訓練を行っている。今年は1回目は9月に行ない、運営推進会議当日の訓練であったこともあり、委員も立会した。避難場所は隣接の特養ホームとしたが、ほぼ全員車椅子による移動のため避難に20分程を要し、その短縮が課題となっている。冬季の夕方に予定している2回目の訓練に向け改善を検討したいとしている。	車椅子による避難の在り方について、20分程度を要した要因を整理した上で、まずは、利用者が事業所内から戸外に速やかに避難する方法について検討することが必要ではないでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄などプライバシーの配慮に気を付け、声かけは自尊心を傷つけないよう心掛け、毎月の会議でも再確認している。	利用者への声掛けは「さん付け」に統一している。トイレの誘導は小声で行い、失敗したときは周りに気づかないように注意をしている。入浴にあたっては、扉を開けたままにしない、裸のまますれ違いたないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせたコミュニケーション方法を見出し、表情や発語、動き等から思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々のペースや訴えに合わせて柔軟に対応している。		

事業所名 : グループホーム いいとよ(北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	必要都度、整容や髪染めの支援をしている。気候に合った服装や好みの服や好みの色合いの服を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けは出来る範囲で行っている。旬の食材を使った献立作りや、週1回の選択メニュー、行事食を提供している。家族様から頂いた野菜や果物を提供したり、誕生日にはその方の好きな食べ物を取り入れたメニューにし、美味しく楽しく食事ができるよう努めている。	皮むきなどの食事準備、食器ふきなどの後片付け、おやつやの盛り付けなどを利用者にも出来る範囲で行ってもらっている。週1回の選択メニューでは好きな主食を選んでいる。各月の行事に合わせて昼食会を行い、5月はちらし寿司で楽しく過ごした。隣接の特養の栄養士から献立のアドバイスを得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し情報共有している他、毎月体重測定を行い増減を把握している。摂取量が少ない場合は好みの飲み物を出したり、ゼリーで補うように促している。嚥下や咀嚼状態によって食事形態を変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、仕上げは職員が行っている。義歯のある方は夜間外して消毒している。状態によって歯科受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけて排泄パターンを把握し、個々に合わせた時間でトイレ誘導やパット交換を行っている。2人介助でのトイレ誘導や夜間はパット交換にする等状態に合わせてケアしている。状態が変わる都度、委員会で話し合い対応を検討している。	排泄記録をつけて、個々に合わせた時間にトイレ誘導やパット交換を適切に行っている。おむつ交換を要するのは両ユニット合わせて4人、ポータブルを使用している利用者はいない。排泄が失敗した場合には、自尊心が傷つかないように配慮して支援している。業務改善委員会で利用者に最適なパットやパンツについて検討し、夜間は大きいパッドに変えて睡眠に徹してもらっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクや散歩で身体を動かしたり、食物繊維の多い食材を献立に取り入れている他、寒天ゼリーや牛乳の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	グループ分けをして週2~3回の入浴を基本としているが、要望に応じて入浴したり、拒否がある方は時間をずらしたりと状況に応じて対応している。	週2、3回の入浴を基本とし、北棟では一般浴、南棟は機械浴となっている。1人あたりの入浴時間は30分以内とし、入浴中は職員と一緒に歌ったり、お気に入りのアヒルを浮かべて楽しむなど、利用者に寄り添った介助を行っている。	



令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いいとよ (北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家にいた時と同じような家具の配置にしたり、一人一人に合わせたベッド位置にしている。寒すぎたり暑すぎたりしないようエアコンや掛物での調節を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイリングしていつでも確認できるようにしている。薬の変更や頓服薬が処方となった際は、確実に申し送りをして周知徹底し、副作用等状態変化ないか経過観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や覚えている事に合わせて食器拭きや洗濯物たたみ、食事の盛り付け等手伝って頂いている。猫が好きな方には施設で飼っている猫と触れ合ったり、編み物を行っていた方に編み方を教えて頂いたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて依然として外出が難しい状況ではあるが、施設周りや畑へ散歩したり、少人数でのドライブを行っている。	感染防止のため、春、秋の遠出のドライブは控え、少人数での近場へのミニドライブで景色を眺めている。施設周りや事業所の畑まで散歩している。利用者は、散歩の途中に事業所裏の畑から保育園児に手を振り、挨拶をして笑顔を見せている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力の面からほとんどの方が立替払いでの対応となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎや、サマーカードや年賀状作成の支援をしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いいとよ (北乃家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けをし、利用者様の作品等も掲示している。食堂のテーブルやソファの位置は使いやすいよう配置し、エアコンや床暖で適温を保つようにしている。	共用空間には季節に合った飾り付けや、利用者の作品や保育園児から贈られた団扇などを掲示している。北棟の居間には3人分、南棟の居間には4人分のソファとテレビを配置しているほか、各フロアにはタブレットが1台ずつ用意されている。床暖房の居間の天窓からは、日光が差し込み、開放的な空間を醸し出している。壁も落ち着いた色で統一している。職員は、毎日笑い合える様、紙飛行機飛ばし大会などをこのホールで行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で休んだり談笑したり動画を見たりと、思い思いに過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ベッド・タンス・洗面台・エアコンが備え付けたり、持ち込みに特に制限を設けていない。カレンダーや作品、家族様との写真等を飾っている。	居室には、ベッド、タンス、エアコン、洗面台が備え付けられ、暖房は床暖房になっている。家族の写真や誕生祝の色紙、保育園児からの団扇などを飾り、落ち着く我が家としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を付けている他、トイレは分かりやすく表記している。身体状況に合わせ動線を考えた家具の配置にしている他、ぶつかりやすい柵や手摺等は保護をしている。		